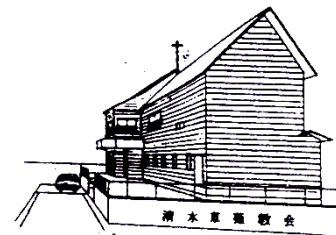


## 《先週夕礼拝の聖書から》

草薙教会では、夕礼拝をおこなっていますが、皆様ご存じですよねえ。などと申し上げると失礼かもしれませんが、いつも思い出しておかないと、本当に忘れてしまいます。これからも夕礼拝を覚え、豊かな時間のためにお祈りください。先週は“出エジプト記” 13：17～22が開かれました。18節をみますと、イスラエルの人々は、エジプトを出た時には武装していたことが分かります。パロに対する備えからか、やがて導きいられる約束の地で戦いに勝利するためにか、あるいは、何時現れるかわからない敵に対してか、“役に立つことがあるに違いない” と思い、備えをしたことなのでしょう。私たちの毎日も、想定される障害に対してか、あるいは未知の危険に対してか、基盤を整えるために、ずいぶん労力を使っているのです。ところが歴史は、“彼らは悔いてエジプトに帰ってしまう” ことも教えています。約束の地、ペリシテ人の住む地は、遠くはないのですが、戦いをみて、そこに入ることができないことが神様には分かっていたのです。この時に彼らの武具は、無用の長物になってしまうのです。しかし彼らには、神様の臨在が、雲の柱、火の柱として、彼らに伴いました。彼らは砂漠の中を宿営してゆくこととなります。このような時には武器は何の役にも立ちません。お金があっても使い道ありません。神様との約束だけが彼らにはありました。彼らは、ヨセフの亡骸を携え、神様にしか頼れない道を進んだのです。これが歴史なのです。忘れないようにしたいものです。聖書に出てくる物語は、すべて記憶するためのものであり、大いに有用なものなのです。われわれはよく“何をするにも一番大事なお金がない” と言います。“金がない” と繰り返して口にします。けれども、一番変わるのは“神様がいる” と思った時か“神様などいない” と思った時なのではないのでしょうか。そしてその変わりようは、正反対のように大きいのです。砂漠の中の物語、現実に、頼るものが何もなく、神様が伴ってくださる世界、全てのものが神様からしか与えられない世界を、私たちも、“出エジプト” の昔から現代に至るまで、繰り返して体験しているのではないのでしょうか。現実の世界の中で、限りない力で導いて下さる主のおいでになることを今日も覚えましょう。

# 週報

2008年 8月 24日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会の会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp